

# 第22回まちの駅全国大会 in やいづ

～ちよつくら 寄らざあ まちの駅～

【日時】2019年10月4日（金）～10月5日（土）

【会場】焼津グランドホテル

【主催】全国まちの駅連絡協議会

【運営】まちの駅ネットワーク焼津

【後援】総務省、観光庁、静岡県、焼津市

【協力】焼津商工会議所、焼津商工会議所青年部



## 式典・オープニング

10月4日 13:15～13:45

### 開会あいさつ

**関幸彦(実行委員長／まちの駅ネットワーク焼津代表)**

こんにちは。全国からお集まりいただきありがとうございます。このように盛大に第22回まちの駅全国大会が出来ることをうれしく思っております。

焼津のまちの駅は、平成18年に35駅でスタートしました。これまでに「着地型観光体験ツアー」や「お使いにチャレンジ」といった取り組みをしたり、平成28年には「偉人を偲んでまちめぐり」という冊子を作りました。

全国大会では、魚のまち焼津のことをいろいろと知っていただき、焼津のまちづくりに色々なお知恵をいただき、焼津を満喫していただければと思います。有意義な会になることを祈念しまして、開会の挨拶と致します。2日間、どうぞよろしくお祈り致します。



### 会長あいさつ

**久住時男(全国まちの駅連絡協議会会長／見附市長)**

ようこそ焼津へ。北は福島から鹿児島まで、全国からまちの駅仲間が集まってくださいました。静岡県では2008年に富士市で開催しており、2回目となります。

焼津市には大きな港が3つあり、遠洋漁業のカツオやマグロ、近海のアジやサバ、シラスやサクラエビなど、海の幸に恵まれた港町です。そうした焼津の文化や歴史を学んで帰りたいと思います。基調講演では川口円子先生に、「焼津の礎」についてお話しいただきます。

第1分科会では、まちの駅仲間が“よそ者の目”で焼津の観光を考えたり、第2分科会では焼津のまちづくりの「アイデアソン」を行うと聞いています。また、第3分科会ではSNSの使い方ということで、FacebookやTwitter、Instagramの使い方を具体的に学び、実践してみる予定です。それから「まちの駅講座」では、まちの駅を始めたばかりの方や、これから始めようという方に、まちの駅の理解を深めていただきたいと思います。

地方創生も第2期に入り、「関係人口」がキーワードとされました。以前からまちの駅では「関係人口」を語ってきましたが、鹿沼を中心にまちの駅ネットワーク同士の関係人口の可能性も検討しています。

今日と明日の2日間、有意義で思い出に残る会になり、良い情報を地域に持って帰って、地域の元気につながればと期待します。関係の方には感謝を申し上げます。

### 歓迎あいさつ

**中野弘道(焼津市長)**

こんにちは。第22回まちの駅全国大会が、ここ焼津で開催されますことを心より歓迎し、多くの方が焼津に来られたことをとても嬉しく思っています。

水産都市焼津は、日本一のカツオの水揚げを誇ります。オリンピックを契機に外国人観光客も増えました。温暖で雪が降らない気候、東京まで1時間という便利さが評価されたようです。皆様には、霊峰富士を眺めていただき、美味しい魚を食べて帰っていただきたいと思います。

焼津市ではAIを活用した業務の効率化を始めています。子育て支援や相談窓口をロボット化することで15%の作業が削減されます。一方で、人とのつながりの重要性が増しています。まちの駅が人をつなげる役割を商売抜きで行ってきたこと、人へのやさしさを20年以上培っていることはとても素晴らしいことです。今後も、まちの駅を中心に、心の通うまちづくりがなされることを期待します。

焼津は年間500万人の交流人口を1000万人にしようと考えています。それが関係人口になり、定住人口にもつながります。まちの駅がますます交流と連携のまちづくりを推進されることをご祈念して、歓迎の言葉と致します。大いに飲んで、食べて帰ってください。



## 来賓あいさつ

### 久野匠一(焼津商工会議所会頭)

こんにちは。皆様ようこそ、魚のまち焼津へ。

第22回まちの駅全国大会が焼津で開催されることを歓迎します。ぜひとも、おいしい食べ物、温泉を楽しんでいただきたいと思います。全国各地で、おもてなしの精神をもって、休憩、案内、交流、連携を進めているまちの駅の取り組みに敬意を表しております。

ご承知のように、人口減少・少子高齢化が進み、人材確保が難しくなっています。さらに10月からの消費税増税、最低賃金の引上げなど、商工業の経営環境はいよいよ厳しい状況の中で、何とか頑張っているところです。

そうした中、まちの駅では、地域の魅力を再発見し、地域の賑わいづくりを、産学官民金が連携して取り組んでいます。まちづくりは人づくり、おもてなし活動による賑わいのまちづくりは、学ぶところがたくさんあります。まちの駅の情報交換や交流により会員相互の結束を強め、まちの駅の活動によって、地域に笑顔の輪が広がることを願っています。本日は誠にありがとうございます。

### 増田 仁(静岡県文化・観光部長代理)

第22回まちの駅全国大会が盛大に開催されることをお喜び申し上げます。全国各地からようこそ焼津へ。

現在、ラグビーワールドカップで日本中が盛り上がっています。日本代表はアイルランド戦で歴史的勝利を収めました。アイルランドの応援客も試合前も終了後もビールを飲みながら、大いに盛り上がっておりました。さらに、来年はオリンピック・パラリンピックが開催されます。静岡県は自転車競技の会場となります。

現在、交流人口の拡大に全県で取り組んでいます。静岡県は180万人の外国人観光客、1億5千万人の観光交流客がありますが、2021年には外国人観光客350万人、観光交流客数1億7千万人という目標を掲げています。

その矢先にまちの駅全国大会が焼津市で開かれることを大変ありがたく思っております。まちの駅によるおもてなしの取り組みは、とても重要な活動です。お互いの交流、ネットワークが静岡県内から県外につながっていくことをご祈念申し上げます。

ぜひとも静岡県の海の幸を満喫していただければ幸いです。本日はどうぞよろしくお願いたします。



## 事務局報告

### 橋本正法(全国まちの駅連絡協議会事務局長)

事務局より、今年度の活動の中間報告をさせていただきます。活動目として3つ掲げています。

1つ目は「オリパラの応援」。各地域でオリパラを自由に応援して盛り上がりとういうもので、福岡県粕屋町のまちの駅が実験的に行っており、鹿児島県でも試みられています。2つ目は「まちの駅同士の連携強化」です。鹿沼市を中心にまちの駅ネットワーク同士の姉妹締結を始めてチャレンジします。3つ目は、まちの駅のない県があるので、47都道府県の早期制覇と全体の設置数を増やすこと。

関係人口や関心人口をまちの駅から発信していきたい。まちの駅が「関係案内所」として機能するのではないかと。そこでまちの駅ネットワーク同士の姉妹締結を、鹿沼市を中心に進めています。具体的な内容は、鹿沼市メンバーから報告していただきます。

最後に、まちの駅の発案者である田中栄治は2月に亡くなりましたが、道の駅の実現者でもあるということで、9月に全国「道の駅」連絡会から感謝状が贈られました。

「道の駅」の社会実験は田中が企画し、平成3年と4年に全国3か所で実施しました。道の駅とまちの駅を両輪として、まちづくりを進めていきたいと思っています。

## 関係人口創出・拡大事業の報告

### 田島佑亮(鹿沼市観光交流課観光施設係主事)

鹿沼市でも人口減少は喫緊の課題です。これまでに地域活性化施策として「まちの駅」や「かぬマニア」といった交流人口創出の仕組みを構築し、展開してきましたが、定住人口の獲得にはつながっていません。

「まちの駅」は設置数では110駅と市町村単位で全国一の数ですが、外部まちの駅のネットワークが出来ておらず、まちの駅間の温度差、活動のマンネリ化、さらには駅長の高齢化などの課題が顕在化しています。

そこで鹿沼市では、まちの駅同士の連携強化を図るために「姉妹締結」を行い、お互いの相互理解を深めるための現地体験ツアーを実施します。

まちの駅同士の締結先として「あらかわ区まちの駅ネットワーク」「まちの駅ネットワーク焼津」「会津まちの駅ネットワーク」の3つと調整・準備中です。

締結式に向けて、姉妹まちの駅メンバーによる鹿沼の地域資源視察ツアー&ワークショップを行います。



## 講演「漁業のまち 焼津の礎」

川口円子氏(焼津市文化財保護審議会委員)

戦前に焼津の漁師が来ていたシャツが独特の“鯉縞”であり、すぐに焼津の漁師だと分かったと言います。漁業のまち焼津の発展の基礎をご紹介します。

### 1. 駿府・東海道に近い漁村【～江戸時代】

江戸時代の初め、駿府城には徳川家康がいて政治の中心地でした。焼津の小川湊は駿府城まで 15 kmに位置し、東海道の宿場に焼津で獲れた魚を売りに行って栄えました。静岡の間に丘陵地があり、当時焼津は「山西」と呼ばれていました。

江戸時代、軍事上の理由から船は七丁櫓まででしたが、家康の命により焼津の船は八丁櫓が認められ、他の船よりもスピードが出ました。1997年に八丁櫓の復元が行われ、2隻造船されました。一隻目を「たける」二隻目を「たちばな」と命名しました。



焼津には様々な家康伝説が残されています。それゆえ、焼津市民にとって家康は身近な存在に感じられるのです。

### 2. 焼津駅開設と動力漁船開発【明治・大正時代】

明治時代以降でも、東京と大阪名古屋の間に位置するという恵まれた地の利を生かして、焼津は栄えました。

明治22年に東海道鉄道が開通し焼津駅が開設されると、それまでの開運から陸運に変わり、農水産物の商圈が拡大されました。鉄道の敷設には地域間の反対や誘致合戦があり、山側ではなく海側を通ることになりました。港と鉄道駅が近いことで、焼津は大きく発展した。昭和12年には、水産物専用ホームまで出来ました。駅からたくさんの水産物が出荷されている写真が残されています。

明治時代のもう一つの変化は、漁船にエンジンが付いたことです。それまで八丁櫓や帆で進んでいたものが、エンジン付きの蒸気船に変わりました。明治35年、静岡県水産試験場の「富士丸」がカツオ釣り用に整備され、より速くより遠くへ行くことが可能になり、漁場が拡大しました。明治から大正にかけて動力船が増え、獲量の増加によって船も大型化していきました。明治時代の急成長は、鉄道駅と動力船によるものでした。

### 3. 水産加工業の発達【明治・大正時代】

明治・大正時代には、水産加工業も発展しました。明治初期まで、焼津は鯉節の生産は盛んではありませんでした。焼津は消費地が近いために生で売りさばくことが出来たので、保存加工の必要がなかったためです。

鯉節の製法は、カツオを①生切りして、②釜で茹でて、③燻して乾燥させます。この時点のものを「荒節」と言います。さらに天日干しとカビ付けを繰り返して「本枯節」となります。

明治初期、焼津では、先進地の高知（土佐節）や鹿児島（薩摩節）から講師を招いたり、視察に行ったりしながら、製法の改良に努力を重ねました。そうして焼津の鯉節の品質が向上し、明治時代後半には水産博覧会で優勝したり、明治27年には全国に鯉節製造教師を派遣するまでになりました。北海道、奄美大島、小笠原、台湾などにも鯉節の指導に行っています。丁寧に指導したことが地元から感謝され、石碑を建てられたところもあります。最盛期には荒節を集めて一面に鯉節が並べられるほどになりました。大正6年、鯉節の一大集積地として、全国に焼津鯉節標準図を配布しています。

昭和初期、静岡ではミカンの缶詰と共に鮪油漬缶詰が盛んに製造、輸出されるようになりました。

### 4. 築港の進展【昭和・戦後期～】

駿河湾の西側はのっぺりした地形で、港としては適していません。焼津の海岸は浅い砂利の浜であり、大きな船が着けられないので、大型漁船は沖に停泊して小さい舢（はしけ）に積み荷を移し替えて浜に水揚げするという2段階作業でした。海が荒れた時は清水港まで避難させていました。港を作ることが、焼津の人々の長年の願いでした。

港湾期成同盟会が結成され、昭和14年に焼津漁港修築工事が始まりましたが、戦争で一時中断。戦後、食糧増産のために本格的な築港工事が急ピッチで進められ、昭和25年に直接水揚げが出来るようになりました。当時は、かまぼこ型の屋根が焼津港を象徴する風景を作っていました。

昭和30年後半から40年代、焼津以外の漁師の船も水揚げのため焼津港に寄るようになりました。港周辺には漁業道具の店、銭湯、飲食店、床屋、映画などの娯楽施設等が増えて、町全体が大いに賑わいました。

鯉節の生産量が伸びると高知や鹿児島からも職人が手伝いに来ました。港町焼津にあこがれをもって出稼ぎにきたといえます。

昭和50年代には、加工技術や冷蔵・冷凍技術が進歩して、大型の倉庫が整備され、焼津の水揚げが増えました。昭和44年には東名高速焼津インターが出来て、流通主体が鉄道からトラックに移行しました。

平成17年、新しい焼津漁港が整備され、大きな巻き網船の水揚げも出来るようになりました。

ハード整備とともに、積極的な技術革新と導入、技術指導なども行ってきたことが、焼津の発展につながっています。人間性が焼津の財産です。言葉は荒い面もありますが、人の良い焼津の人間性にも触れていただければ幸いです。

## 第1分科会「着地型観光」

### 1. 趣旨

- ・まち歩きなどの着地型観光やインバウンド対応など、様々な観光のあり方が求められている。
- ・外国人、団塊の世代、若者、家族ずれ、一人旅など、様々な観光客を想定し、まちの駅を活用した様々な観光プランづくりを考え、実践につなげる。
- ・焼津をフィールドに、ケーススタディを行う。

### 2. ゲストからの説明

#### 鈴木 源(焼津市歴史民俗資料館学芸員)

- ・焼津の歴史、文化、自然環境などからみた魅力ある施設をスライドで紹介。

#### 那須野絢子(焼津市小泉八雲記念館学芸員)

- ・小泉八雲と焼津市の関わり、それに関連した市内の関連スポットを紹介。
- ・着地型観光の試みとして、小泉八雲文学館が主催したイベントを紹介。

#### 藤田とし子(まちと人感動のデザイン研究所代表)

- ・着地型観光を目的としたモデルルートづくりのポイントについて説明。
  - ①来て欲しいターゲットは？ ⇒地域側が客を選ぶ
  - ②周遊時間…半日、一日、宿泊滞在、その他
  - ③移動手段…自家用車、鉄道利用、自転車、その他
  - ④まち歩きのストーリー…楽しませるイメージ作り
  - ⑤体験型プログラムがリピーターを作る

### 3. ワークショップ進め方について

- i) 各班は焼津市以外、焼津市のメンバーが半々で構成。
- ii) 焼津市内のまちなめぐりルートを作成する。
- iii) 作業の前提としての条件設定
  - あ) 観光客層のターゲットを絞る…オーダーメイド
  - い) 半日の周遊・観光…日帰り観光客が焼津を楽しむ
  - う) 訪問先にまちの駅を2~3数か所入れる
  - え) 体験型プログラムを入れる…強い印象づくり

### 4. ワークショップ報告

#### 第1班

- ・中年夫婦が焼津で美味しい魚を食べながら自家用車で日帰り観光コースの設定。
- ・まちの駅「大漁旗の家」で漁業の話聞き、大漁旗を模した手ぬぐいを購入⇒となりの店で地酒を購入⇒まちの駅の案内人がガイドを行い、浜通りを散策する。漁港越しに富士山を眺める⇒地元の人も訪れるまちの駅で昼食⇒歴史民俗資料館で焼津の歴史を学ぶ⇒黒潮温泉で大漁旗の手ぬぐいを使って、ひと風呂浴びる。

#### 第2班

- ・女性をターゲット、魚を中心に美味しい食事を楽しむ。
- ・中国人や韓国人観光客には、マグロ、お茶の聖地をイメージしたインスタ映えする写真や動画をネットで配信。
- ・豪華三港名物魚料理巡りを設定。焼津港のマグロ料理⇒小川港の漁師料理⇒大井川港のサクラエビ料理。

#### 第3班

- ・県外から来た人をターゲット。富士山が見えるビュースポットを売り込む。
- ・小川港を中心とした海沿いの富士山が見えるスポットを散策。年間 250 日も富士山の眺望が可能な焼津の財産。魚市場真ん前の「うみしる」で海鮮料理を楽しむ。

#### 第4班

- ・中年の女子旅を想定。市内を自転車で巡る。移動の柔軟性、まちの駅で道案内や乗り捨てができればより便利。
- ・3つの漁港で、それぞれの違いを生かした菓子のスイーツも楽しめる別腹コースを設ける。
- ・その他、20代のアニメ男子を対象とし、沼津とコラボした「ラブライン」も考えられる。(今後の検討テーマ)

### 5. ゲストコメント

#### 藤田とし子(まちと人感動のデザイン研究所代表)

- ・各班ともユニークな提案。具体的イメージが湧き、その上で「わくわく感」もあり、とても素晴らしい。
- ・着地型観光のポイントは地元との触れ合い。まちの駅を中心に、地元の人との触れ合いが出来ることが重要。
- ・各プランとも、現実に活かして焼津を訪れる人との触れ合い、つながりをぜひ深めて欲しい。

#### 鈴木 源(焼津市歴史民俗資料館学芸員)

- ・文化財の保存、活用という立場からも、色々と柔軟に考えていきたい。まちの駅の方々と、さらに連携・協力して活動を広げていきたい。

#### 那須野絢子(焼津市小泉八雲記念館学芸員)

- ・これからのテーマとして、今どきのはやり、例えばインスタ映え、アップ等のキーワードが盛り込めれば、もったいもったい目にも留まることができる。多様、多角的な視点から見るとさらに良くなると思う。
- ・小泉八雲記念館も「まちの駅」になっているので、何らかの形でコラボしていきたい。



## 第2分科会「まちの駅へどうぞ(集客と活性)」

### 1. 事例報告

#### 福田義一(まちの駅ネットワークかぬま)

- 鹿沼市のまちの駅は設置数が日本で注目されている。平成17年に70駅でスタート。民間主体の運営。
- スタンプラリーを実施。いろいろな店が加入しているので賞品はたくさん集まるが、当選者に賞品を送る送料が負担になり、途中から引換券に替えた。10年ほど続けたが、参加者のマナーの問題が生じたために中止した。
- まちの駅新鹿沼宿という拠点施設を後から整備した。廃業したスーパーの跡地を購入し、行政施設として「まちの駅」を整備した。「道の駅」にも登録できる機能を持っているが、中心市街地にあるので登録は断念。日本一きれいなトイレを目指そうというコンセプト。
- まちの駅姉妹締結を、3地域と結ぶ予定で準備中。平成時代は交流人口の拡大を目指してイベントで集客したが、令和時代は関係人口の獲得を目指している。関係人口は人と人との関係であると考えている。

#### 渡辺栄一(富士市まちの駅ネットワーク)

- 富士という名前は有名だが、富士市は知られていない。まちの駅は、2004年に実験設置し、2005年に本格設置して、現在は65駅。20駅までは一体感があったが、40駅以上になると温度差とマンネリ化が出始めた。
- 富士市には3つの日本一がある。まずは富士山。駿河湾は深さ2500mで日本一。富士山との高低差は6200m。3大急流の富士川は河口幅が2300mで日本一。
- 地元の人が気づかないものを、よその方に見てもらい、気づかせてもらう。地域のあるもの探しを、まちの駅のメンバー同士で行うといいのではないかな。
- まちの駅メンバーは業種業態がバラバラ、まとまりをつくるための5つの心構えを作った。「頑張らなくてもあきらめない」「愚痴は言わずにいいこと探し」「出会い、ふれ合い、譲り愛」「身の丈に合ったおもてなし」「地道にコツコツ長いお付き合い」。
- 毎年12月にまちの駅を募集、1月に審査、3月までに入会手続きをする。知名度がまだまだ低い。道の駅が2つあるが、道の駅とまちの駅を間違えるのが「みまちがい」。

#### 開本浩二(まちの駅ネットワークはつかいち)

- 広島県廿日市、平成17年の大合併で、宮島町も入っている。市の名前よりも宮島の方が有名。平成29年からスタート。去年、全国大会でまちの駅105駅と自慢したが、鹿沼市に抜かれた。
- スタンプラリーをしたり、フォトコンテスト、まちの駅スクールなど。まちの駅同士で仲良くなってもらうため、

駅同士のワークショップをしている。

- 「おてつたび」の話を聞いて、ホテルの社長に話をし、8月に受け入れをした。

#### 永岡里奈(株式会社おてつたび CEO)

- おてつたびとは「お手伝い+旅」の造語であるが、新しい旅のカタチを提供する会社を昨年設立した。ミッションは、「誰かにとって特別な地域をつくる」こと。
- 東京は人と情報が多くて、差別化が難しく、情報に埋もれてしまう。不特定多数ではなく、その人にとって特別な地域をつくる。人が地域をめぐる社会づくり。季節的・短期的な人手不足のホテルや農家などに、都会の若者を紹介するマッチングサイトを運営。
- 出会って、お手伝いをしてもらって、仲良くなってもらう旅の提案。地域の人が見え、仕事内容は交通費分を稼いでもらう。マッチングは簡単にできる。ユーザーのマイページで申し込み、プロフィールが分かるので、受け入れ側はそれを見て判断できる。ぜひ、まちの駅とのコラボ企画を考えましょう。



### 2. アイデアソンの結果発表

#### A グループ

- 富士山を売り出す。姉妹まちの駅のことがあり、焼津の富士山、遠くの富士山、交流できれば、海越しの富士さん。ここが一番という富士山、手前に山がある富士が良いという方も。まちの駅静岡県連の話もあったが、姉妹まちの駅では全国で見える富士山で姉妹関係を、静岡に関わらず、富士を取掛りとして行き来をしてもいい。

#### B グループ

- 焼津の特長では大漁旗を活用、大いにアピール、焼津の心意気、グランピング、海辺の高級キャンピング、大漁旗を掲げたお茶と魚のキャンプ生活をアピール。

#### C グループ

- 焼津の水産、ホテル、焼津の漁船に泊まって「おてつたび」。カツオ柄のTシャツを着て、アベックで並ぶと横で1匹になる。寝る時は大漁旗のシーツで。仕事をしながら観光もして、「おてつたび」を企画する。

#### D グループ

- 焼津の名前は古事記・日本書紀にある。廃れないパワースポット、神話の地名、ヤマトタケルに縁、家康の安住の地として地域を売り出す、富士山と深い駿河湾、朝日を仰ぐ。一泊して、安住の地としての焼津、バカンス、日の出が東から富士を染める、日常の焼津、等。

## 第3分科会「SNSでまちの駅のイノベーション」

### 1. 趣旨

- SNSに関する「勉強会」と「組織的に使うための戦略会議」という位置づけでワークショップを行った。
- 参加者は SNS をよく使われている方が 80%、余り使われていない方が 20%。
- 後日、事務局から今回の調査結果と今後の進むべき方向性に関する案を提示し、議論するとともに、具体的な活動につなげていくことを確認した。

### 2. SNSの概要の説明

庄司圭織(株)Wanderism 代表取締役社長

#### ①Twitter

140文字までしか書けないので、短く情報を発信する。特長はリツイートができること。他の人がつぶやいたことが拡散される。拡散力が最も強い。きつい返信に対しては、ミュートやブロックで非表示にするなど、心を守りながら利用することが重要。悪い返信は無視すること。

#### ②Facebook

顔を見知った個人同士の SNS として、内輪感がある。グループやページを作ることができ、ターゲットマーケティングの点が優れている。

#### ③Instagram

動画か写真がないと投稿できない。フォトジェニックなモノがあるときは Instagram が良い。ハッシュタグは 30 個まで、13~14 個入れるのが一番効果的と言われる。炎上の可能性があるルール違反や危険な行為には要注意。

#### ④SNS活用の留意点

- 日本人が SNS を見る時間の方より、8時から9時と通勤時間帯、12時間と昼休み。退勤時間、5時から6時ころ、就寝前の11時くらいに若者は SNS、ログイン時間を狙って、発信する。リーチ力。
- # (ハッシュタグ) を付けることで、発信力が高まる。その言葉の興味を持っている人が見てくれる。釣れそうな単語で釣る。

### 3. SNS体験

①Instagram 投稿体験として、「#焼津まちの駅」というタグをつけて投稿する体験を行った。

- 各まちの駅やネットワークの SNS の利用状況の確認を行った。結果をまとめると、①Instagram や Twitter の利用者は 20%程度で余り、積極的に使われていない。
- 今回、一つの練習テーマとして、Instagram の投稿を皆で行うこととしたが、投稿数は 31 件と少なかった。

②Facebook + WEB(Home Page) この組み合わせが一般的であり、3 グループに分けられることが判明。

- Gr.A : Facebook 等で積極的に発信しているまちの駅ネットワーク (会津まちの駅ネットワークなど)
- Gr.B : Facebook 等で積極的に発信しているまちの駅単体、および個人 (おやま市まちの駅思季彩館、久住時男全国まちの駅連絡協議会会長など)
- Gr.C : あまり積極的に発信していないまちの駅ネットワーク & まちの駅
- 核となるべき Facebook アカウントとして、NPO 地域交流センターで管理する「まちの駅連絡協議会」がある。それと各まちの駅 & ネットワークは、ある程度の連携は取れているが、組織的な連携は取れていない。

### 4. 参加者からの意見

- SNS の利用の目的を明確にして進める必要がある。
- SNS を上手に使っている方々にはそれを続けてもらう。
- SNS を使っていない方には、教える場を設ける。
- 地域交流センターがもっとイニシアティブをとる必要があるのでは。

### 5. 上記を考慮した提案

#### ①初期の目的

各まちの駅ネットワークの活動内容を、積極的に情報発信する。他のまちの駅 & ネットワークの活動内容を、自分たちで利用できないかという観点で見る。

#### ②最終的な目的

一般の観光客や関係人口となるべき人たちに「まちの駅」の魅力伝えるための情報を充実させる (どのような情報が必要かは重要である) の 2 つの切り口がある。

#### ③今後の進むべき方向性案

- Facebook アカウント「まちの駅連絡協議会」と、特に Gr.A との連携を充実させる。具体的には、本部事務局が Gr.A を Watch し、他のネットワークに知らせるべき情報は「シェア」機能で「まちの駅連絡協議会」に掲示する。各まちの駅ネットワーク (Gr.A & B & C) は、他のエリアの動きで参考になることがないか「まちの駅連絡協議会」を Watch するようにする。
- 定期的に Watch するように連絡する必要がある。本日事務局と一緒に、各地のまちの駅とが Watch する機能を持たせる。
- Gr.C の人たちは、Gr.A&B を勉強材料とする。また、事務局からの情報提供を行う。



## 第4分科会「まちの駅基礎講座」

焼津の場合、まちの駅の役割が薄まっているという。交流・連携によるまちの活性化をどうするか。全国大会の地元開催を契機に、まちの駅とまちの魅力発信を考えた。

### 1. 基礎講座

- 平成3年と4年に地域交流センターが主体となって道の駅社会実験を行い、その成果を受けて、平成5年に建設省道路局が道の駅を制度化した。
- 道の駅提案の発端は、ドライブ中のトイレ問題。特に女性は困るという現状があり、トイレ休憩施設が国道沿いになれば助かるという問題提起があった。
- もう一つ、バイパスが整備されたのに、自分の町には誰も立ち寄らないという指摘。道路整備は騒音と振動ばかりで、地域活性化になっていないという課題があった。
- 道路局が定めた道の駅は公共施設に限定され、民間セクターは設置者になれない。また、国道に面していないと道の駅登録は認められないという制約があった。
- 当時の第五次全国総合開発計画に「地域連携軸」というキーワードが提示され、道の駅が地域連携の拠点機能を担うと考え、提案もした。当時の道路局は、道の駅がそこまでの機能を担うことは時期尚早との回答だった。
- そこで、道の駅と同様の機能を持つ地域連携の窓口拠点を「まちの駅」と称して提案した。収益活動ではないので、設置者は公共セクターを想定した。
- ところが、民間セクターから参加したいという要望があり、街中の歩行者用拠点としての設置が提案された。拒む理由が全くないので、民間の参入を受け入れた。
- 民間参入が始まると、地域内に多数のまちの駅が設置され、ネットワーク型まちの駅が提案された。福岡で実証実験が行われ、まちの駅同士が連携することで、異業種間まちの駅の相互応援関係が生まれた。集客力のあるまちの駅の情報発信が、他のまちの駅の集客につながることも証明された。
- 場の機能以上に、人のつながり、地域のつながりの重要性が確認され、地域のために何かしたいと思う人が集まる仕組みとして、まちの駅の設置数が増加した。
- 「休憩」「案内」「交流」「連携」を持つべき機能としているが、休憩場所はいす1個でもいいし、案内機能もレベルを問うてはいない。地域を愛し、地域をよく知る人がいる場所として、英語では「ヒューマンステーション」という説明になった。場よりも人重視の展開へ移行。
- 現在、全国のまちの駅設置数は1630か所。思いや気持ちがあれば、誰でもまちの駅が出来る仕組みになった。
- まちの駅の認定基準は、最低限の機能を持つこと以上に、既存のまちの駅との関係づくりを重視。事前にまちの駅

を訪問して、顔見知りになってもらうことを条件に。

- まちの駅のマークは、3つの人に **information** の **i** マーク。人を3つ書く漢字は“衆”の略字として、今も中国で使われている。「よそ者」「若者」「ばか者」や「鳥の目」「虫の目」「魚の目」や「汗をかく人」「知恵を出す人」「金を出す人」など、3人集まるとまちづくりが始まる。
- まちの駅になることで、地域への関心やよそのまちづくりへの関心が高まるという意識の変化が、長岡大学の学生によるアンケートで証明されている。
- まちの駅は「見えない線路でつながっている」という説明をしているが、まちの駅姉妹提携は、駅同士の関係の見える化、意識化である。
- 「まちづくりは雑談から始まる」と言われる。まちの駅が、地域の方々の雑談の場所になれば、そこからいろいろなアイデアが生まれ、新たな地域活動が始まる。

### 2. 自由意見交換

- イベント疲れをしてしまうので、ほどほどの大変さのイベントでまちの駅をPRすべき。
- これからのまちの駅は“スマホ充電”と“wi-fi機能”を装備することが最重要テーマ。
- まちの案内をする人、まち歩きの人が増えている。まち歩きをする人に、まちの駅を伝えることが重要。
- まちの駅の年会費がネットワークによってバラバラ。行政の支援があるところとないところがある。
- 補助金に頼ると活動が自立しない。もらえなくなったとたんに、活動休止になる。
- お金を取るとまちの駅を辞めるのではないかと考えてしまう。会費を払ってこそ、その分を取り返そうという活動になるのではないかと。会費無料だと何もなくなる。
- 「おもてなし」とは何か。おもてなしとは、その人のために自分の時間を使うことではないか。
- まちの駅の知名度が低い。どうやって知ってもらうか。SNSの活用もあるだろうが、基本は口コミ。各まちの駅が、他のまちの駅や駅長を紹介したり、本業の良さをPRしたり、褒め合う文化を醸成すべき。
- まちの駅のメリットは何なんかが分からない。地域貢献なのか、収益なのか、その他のメリットなのか？
- メリットがある方が良いが、メリットばかり考えると、メリットがなくなると止めてしまう。
- 商工会や他のまちづくり団体との差別化。異業種連携、官民連携、他地域との協働・連携、互いの顔が見える関係を作るべし。



焼津の海の幸を堪能する大宴会



さかなの街焼津



二胡演奏



焼津まぐろ解体ショー



声高らかに富士山乾杯



大宴会の司会のコードリーさん



おさかな尽くしの宴会料理



静岡県内のまちなかの駅メンバー

エクスカーション

10月5日 8:30~14:30

まちなかの駅ツアー・さかなのまち焼津めぐり

コース1 さかなのまち満喫乗船体験コース



乗船体験(長兼丸)



焼津小泉八雲記念館



鯉節工場見学(株新丸正)



焼津さかなセンター(昼食)

コース2 さかなのまち焼津の産業体験コース



うみしる(静岡県水産技術研究所展示室)



サッポロビール静岡工場



かんぽの宿焼津(昼食)



山松水産(超低温冷蔵庫)